

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①研究の領域を「読むこと」にしたり、他教科や日常場面が必要となる読む能力の向上につなげる。②重点研の研究テーマを「学ぶ楽しさを実感できる子～目的意識と相手意識を明確化した言語活動の充実をめざして～」と設定し、国語科を中心に、授業がわかり、学習することが楽しく感じられるような授業を展開する。	①研究領域を「読むこと」にしたことで、似たような言語活動が行われ、以前身に付けた力を生かして活動する姿が見られた。②児童の実態に合わせた教師の指導や言語活動が設定されることで、児童が意欲的に取り組む姿が見られた。また、学習したことを生かして活動できたり、自分の考えや意見を交流する場面で自信をつけたりして、学習すること	A	確かな学力	①重点研究の研究テーマを「自分の思いを進んで表現し互いを認め合う子の育成を目指して」設定し、道徳を中心に伝え合い認め合う力を高められるような授業を展開する。②道徳のあり方を共通理解するとともに、「適切な資料の扱い」「狙いと価値にえまる発問」「振り返りの充実」を研究の視点とし、研究を進める。③「振り返り」に重点を置き、日常を振り返る手立てや時間の確保を工夫すること	①進んで自分の思いを伝えるよ姿が見られるようになった。また、本音を話す児童も増えてきた。②考える姿勢ができ、自分の姿を見つめたり、自分ごととして、登場人物の気持ちに近づいたりすることができた。③自分の思いをもち、発言できるようになってきた。生活の中でもよい行いを実践したりする児童の姿が見られた。	B	確かな学力	①今年度も重点研究テーマを「自分の思いを進んで表現し互いを認め合う子の育成を目指して」と設定し、道徳を中心に、自分の思いを伝え合い、認め合う力の育成を目指す授業を展開する。②研究視点を「適切な資料の扱い」「ねらいと価値にせまる発問の工夫」「振り返りの内容の充実」とし、「話合いや議論する道徳」の展開や、実生活に結び付けられる授業の展開を行う。	①研究テーマにある思いを表現する、互いに認め合うということ、自分のことを素直に語れるようになったり、間違ったことも聞いてくれる安心から正直に話ができるようになった子が増えた。②視点に照らし合わせて、グループトークや意図的指名、議論を促す発問や話をつなぐ問いかけなどの手立てを工夫した結果、学年が上がるにつれて、友だち	A
豊かな心	①自ら進んであいさつする姿を評価し、みんなで温かい学校づくりを推進する。②登校班や、縦割り班活動を通して学級集団だけではなく異年令同士をつながりを築くようにする。③保護者や地域の方々とふれあう活動を大切に、その活動の中で出会う人とのつながりや、その方々の温かさや優しさにふれあえる学習を展開する。	①については、これまでの伝統を子供たちが自ら受け継ごうと努力し続けていた。教職員も、登校時に積極的に声掛けをするなど、意欲的に指導に望んでいた。②も同様に、子どもが主体的にお互いの関わりを築こうとする姿が見られた。③は、行事に止まらず、社会科や生活科、総合的な学習の時間などの授業でも地域の方のご協力をいただき、	A	豊かな心	①自ら進んであいさつする姿を評価し、みんなで温かい学校づくりを推進する。②登校班や、縦割り班活動を通して学級集団だけではなく異年令同士をつながりを築くようにする。③保護者や地域の方々とふれあう活動を大切に、その活動の中で出会う人とのつながりや、その方々の温かさや優しさにふれあえる学習を展開する。	①については、これまでの伝統を子供たちが自ら受け継ごうと努力し続けていた。教職員も、登校時に積極的に声掛けをするなど、意欲的に指導に望んでいた。②も同様に、子どもが主体的にお互いの関わりを築こうとする姿が見られた。③は、行事に止まらず、社会科や生活科、総合的な学習の時間などの授業でも地域の方のご協力をいただき、	A	豊かな心	①自ら進んであいさつする姿を評価し、みんなで温かい学校づくりを推進する。②登校班や、縦割り班活動を通して学級集団だけではなく異年令同士をつながりを築くようにする。③保護者や地域の方々とふれあう活動を大切に、その活動の中で出会う人とのつながりや、その方々の温かさや優しさにふれあえる学習を展開する。	①については、6年生が朝主体的に活動できるようになった。その姿を見た5年生が引き続き主体的に活動を行っている。②も同様に、子どもが主体的にお互いの関わりを築こうとする姿が見られ続けている。③は、行事に止まらず、社会科や生活科、総合的な学習の時間などの授業でも地域の方のご協力をいただき、充実した活動を行えた。	A
健やかな体	①子どもが運動する楽しさや喜びを味わえるよう、各学年の単元の系統性を意識した学習を計画する。②休み時間を活用した「チャレンジクラブ」において、長縄跳びを全学年が行うことにより、運動機会の確保と体力の向上を図る。	①低・中・高で指導する内容を明確にできるよ、メンター等で行内研修を行った結果、運動する楽しさを感じながら、指導内容を身に付けられるよう、授業展開を教師が工夫できるようになった。②長縄跳びの回数をクラスごとに掲示することで、意欲の高まりがみられた。	A	健やかな体	①子どもが運動する楽しさや喜びを味わえるよう、各学年の単元の系統性を意識した学習を計画する。②休み時間を活用した「チャレンジクラブ」において、長縄跳びを全学年が行うことにより、継続的な運動機会の確保と運動技能の向上を図る。	①学年で同じ場をそのまま使用することにより、場の設定の時間の短縮ができた。体育の時間だけでなく、休み時間にも積極的に子どもたちと外で遊ぶよう努めた。②雨天時も運営の仕方を工夫し、長縄跳びができる環境を調整した結果、運動機会の確保ができた。	A	健やかな体	①子どもが運動する楽しさや喜びを味わえるよう、各学年の単元の系統性を意識した学習を計画する。また、学習指導要領の改訂により、変更すべきカリキュラムを実践を通して改善する。②休み時間を活用した「チャレンジクラブ」において、長縄跳びを全学年が行うことにより、継続的な運動機会の確保と運動技能の向上を図る。	①水泳の指導時期と運動会等の行事との関連を考えた計画した。校内施設の工事があったため、体育館が使用できない期間があり、次年度への引継ぎ事項とする。②雨天時でも取り組めるようになったことで、外遊びの奨励にもつながり、体を動かす機会の確保につながった。	A
児童指導	①「報告・連絡・相談」を徹底し、クラス、学年に、専任、級外、副校長、校長を加えた「チーム獅子ヶ谷」で指導に当たる。②職員会議内の児童指導の時間をさらに充実させ、児童の状況を共通理解する。③児童代表委員会の活動を充実させる。	①については、「チーム獅子ヶ谷」を全教職員が意識し、子どもたちの指導にあたる。②については、既存の情報交換の時間にとどまらず、何か気になることがあれば、学校全体で情報を共有し、対応することができた。③は、担当教諭を中心に、子どもたちが満足できる活動を常に目指すことができた。	A	児童指導	①「報告・連絡・相談」を徹底し、クラス、学年に、専任、級外、副校長、校長を加えた「チーム獅子ヶ谷」で指導に当たる。②朝のあいさつや学年研、職員会議内の児童指導の時間をさらに充実させ、児童の状況を共通理解する。③児童代表委員会の活動を充実させる。	①については、今年度も「チーム獅子ヶ谷」を全教職員が意識し、子どもたちの指導にあたる。②については、既存の情報交換の時間にとどまらず、気になる子についての情報交換報告会を、年5回行なった。③は、議題をクラスごとに表示するなど、具体的な改善に取り組んだ。	A	児童指導	①「報告・連絡・相談」を徹底し、クラス、学年に、専任、級外、副校長、校長を加えた「チーム獅子ヶ谷」で指導に当たることを徹底する。②気になる子報告会や学年研、職員会議内の児童指導の時間をさらに充実させ、児童の状況を共通理解する。③児童代表委員会の活動をさらに充実させる。	①については、今年度も「チーム獅子ヶ谷」を全教職員が意識し、子どもたちの指導にあたる。②については、既存の情報交換の時間にとどまらず、気になる子についての情報交換報告会を、年5回行なった。③は、主体的な挨拶運動が始まるなど、具体的な改善に取り組んだ。	A
地域連携	①農作業体験活動などを通じて様々な人々と関わりながら、地域や人やもの大切に、気持ちのよい挨拶や優しい気配りのできる子の育成を図る。②「まちとともに歩む教育懇話会」等の意見を反映するとともに、地域の行事等にも学校としてできることに、積極的に関わっていくようにする。	①今年度も豊かな自然環境に加え、地域や保護者の理解と協力により、実体験を通じた教育活動が実践できた。来校者からお褒めの言葉を頂くほど、気持ちのよい挨拶の励行も、本校の伝統となりつつある。②様々な機会を通じ、地域や保護者からの声に対し、迅速に対応するよう心掛けた。	A	地域連携	①豊かな自然環境や人的環境のもと、農作業等の実体験を通じて様々な人々と関わりながら、地域や人やものを大切に、礼儀正しい挨拶や気配りのできる子の育成を図る。②「教育懇話会や学校評価」等の意見を学校運営に反映させていくとともに、地域の行事等にもできる限り積極的に関わり、児童へも参加を促していくようにする。	①今年度も豊かな自然環境に加え、地域や保護者の理解と協力により、実体験を通じた教育活動が実践できた。来校者からお褒めの言葉を頂くほど、気持ちのよい挨拶の励行も、本校の伝統となりつつある。②様々な機会を通じ、地域や保護者からの声に対し、迅速に対応するよう心掛けた。	A	地域連携	①「地域で育てる」という共通意識のもと、地域の方々に学校教育に関わっていただくだけでなく、児童へも地域の行事等に、積極的に関わっていくよう促す。②「教育懇話会」や「学校評価」などの意見だけでなく日頃から寄せられる情報にも真摯に向き合い学校運営に反映できること(もの)は積極的に取り入れていくようにする。	①稲作活動を始め、教育活動への協力を積極的に呼びかけたため、父親を含め多くの方に参加していただく機会が増えた。地域行事への参加は、難しい一面がある。②学校に寄せられた情報は、常に教職員全体で共有し、その対応にあたるよう努めてきたため「安全で安心した学校生活が送れている。」と、一定の評価を得られた。	A
特別支援教育	a17①一般級における配慮を要する子のアセスメントと具体的な支援策を年3回全職員で共有し、指導に生かすとともに、対応に一貫性をもたせる。また、自閉症スペクトラムなどの児童への具体的な支援方法を研修により学ぶ。②個別支援級と交流級の間で、具体的な交流内容や児童の様子について定期的に情報交換をし、双方にとって交流が効果的なものになるようにする。	①年間で3回の配慮を要する子の報告会をもつことができ、実態や支援策の共有ができた。具体的な支援策を交流することにより、自分のクラスの子どもの対応策に生かすことができた。また、東部療育センターの方を講師にお招きして、様々な障害に関する研修をすることができた。②交流している児童についての情報交換	A	特別支援教育	①一般級における配慮を要する子のアセスメントと具体的な支援策を全職員で共有し、指導に生かすとともに、対応に一貫性をもたせる。具体的な支援の方法を研修により学ぶ。②個別支援級と交流級の間で、具体的な交流内容や児童の様子について定期的に情報交換をし、双方にとって交流が効果的なものになるようにする。②日々の交流の中で情報交換をすることで、全学年と交流を実施し、一般級の児童	①年間で3回の配慮を要する子の報告会をもつことができ、実態や支援策を共有することができた。東部療育センターの方を講師にお招きして、児童の困り感を分かりやすく教えていただき、その後の指導に生かすことができた。②日々の交流の中で情報交換をすることで、全学年と交流を実施し、一般級の児童	A	特別支援教育	①配慮を要する児童のアセスメントと具体的な支援策を全職員で共有し、指導に生かすとともに、どの職員も同じ対応ができるようにする。個別的教育支援計画、個別の指導計画作成研修を行い、通級指導教室で指導を受けている児童はもちろん、配慮を要する児童についても、保護者とともに作成していくことを、まず個別支援級から広めていく。児童の困り感を察した職員は、それを他職員と共有し、できる支援を考える。その支援は、改まったこと	年間3回の配慮を要する子の報告会をもつことができ、実態や支援策を教員だけでなく、全職員で共有することができた。個別的教育支援計画、個別の指導計画作成については、保護者とともに作成していくことを、まず個別支援級から広めていく。児童の困り感を察した職員は、他職員と共有し、できることから支援することができた。	B
a18			いじめへの対応	①学年研において、いじめ防止に向けての情報共有を行い、具体的に行った支援を記録し、確認する。②「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事の場などで積極的に活用する。	①については、毎月1日に行われるいじめ防止対策委員会への事前の情報共有の場として、活用することができた。②については、来年度の取り組みについて検討することができた。	A	いじめへの対応	①学年研において、いじめ防止に向けての情報共有を行い、具体的に行った支援を記録し、確認する。②毎月1日に「獅子ヶ谷小学校いじめ防止対策委員会」を開催し、いじめの疑いがある段階での対応を徹底する。③「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事の場などで積極的に活用する。	①については、毎月1日に行われるいじめ防止対策委員会への事前の情報共有の場として、活用することができた。専任の記録も大変役に立っている。②については、常に素早い対応を心掛け未然防止、早期発見に効果が発揮した。③については昨年同様誰もが安心して、安全に、楽しく学校生活を送れる手助けとなった。	A	
人材育成・組織運営	①同様の課題や悩みを共有し合い、学習指導や児童指導の実践力の向上に加え、精神面での支え合いに努める。②「職員全員で関わっている」という意識を高めるために、職員会議などの定期的な情報交換の場だけでなく、常に「報告・連絡・相談」を心掛けるようにする。	①メンターチームによる授業実践や情報交換により、お互いの指導力向上につながる大きな支えとなった。②児童の些細な様子の変化や保護者からの声など、まずは学年で共有化し、児童専門・管理職へと広げること、早く適切な対応をすることができた。	B	人材育成・組織運営	①課題や願いを共有し合い、学習指導や児童指導の実践力向上を目指すとともに、精神面での支え合いにも気を配りながら、教師はもちろん人間としての魅力を向上させる。②すべて「自分事」という意識を高めるために、職員会議や校内支援委員会等の定期的な情報交換の場に加え、日頃から積極的なコミュニケーションを図れるように促していく。	①今年度は、若手職員のニーズに合った内容でメンター研修会を実施することで、より日常に活かせるものとなり、精神的にも有意義な時間となった。②学校運営組織において、一人ひとりがその一翼を担っているという意識をもって行動する職員が増え、円滑な連絡系統の構築が見られ、また対応できる場面が増えた。	B	人材育成・組織運営	①課題や願いを共有し合い、学習指導や児童指導の実践力向上を目指すとともに、精神面での支え合いにも気を配りながら、教師はもちろん人間としての魅力を向上させる。日頃からのコミュニケーションをより一層積極的に図るよう促しながら、職員一人ひとりの自己有用感の向上を目指す。	①個々が抱えている課題や悩みについて、メンター研修会にて検討を積み重ね日々生き生きと児童の指導にあたる事ができた。②「ミライム」を始め、職員間の綿密な情報交換に努めた。様々な事案に対して、職員一人ひとりが「目配り」「気配り」「思いやり」の精神で関わることで、円滑な学校運営が進められた。	A
ブロック内相互評価後の気付き	〇すっかり顔なじみになり、気さくに挨拶を交わし、児童に関する情報交換のやり取りも自然になってきた。引き続き「同じ地域で学ぶ子どもの育成に関わっている」という意識を持ち続けていきたい。〇小学校の授業公開を1枚ずつに絞り、持ち回りで実施することで、事後研の討議内容に深まりが見られた。また、数年後入学予定の児童(現小4・小5)の授業を参観し、情報を共有することは、とても意義があった。今後は無理のない形で、クラブ活動(部活動)など学習以外の連携の場の充実にも力を入れていきたい。		ブロック内相互評価後の気付き	〇事前の丁寧な情報交換により、小学校を卒業した児童が中学校ではどのような生活を送っているか。また小学校での児童の様子を知ること、中学校での生徒指導の方法が統一され充実してきている。〇年間を通して計画的に実施された小中連携の研究会を通して、小学校・中学校双方の職員が、児童生徒理解を始め、適切な指導方法を理解するにつれて、授業展開において改善が見られるようになってきた。今後も教員間のつながりを大切にしながら、児童・生徒間のよりよいつながり方を模索していきたい。		ブロック内相互評価後の気付き	〇同じ地域で学ぶ子どもたちの教育に関わっているのだから、目指す子ども像を共有することは当然必要なことであり、年々その視点も絞られ、成果を上げてきている。今後も機会を設けて、積極的な情報(意見)交換を行ってきたい。〇挨拶ができた相手や思いやりや気持ちは備わりつつあったりするが、ややもすると、自主性やいい意味での闘争心のような強さを感じられない印象もあるので、そのような力を育める場や活動についても検討を重ねていきたい。				
学校関係者評価	〇本校の教育目標である「豊かな心の育成」や「学び合い・高め合える子どもの育成」の実現には、豊かな自然環境を守り、教育活動にご理解・ご協力をいただいている、地域や保護者の方々の存在が不可欠である。「地域で学ぶ子ども」という認識のもと「地域を愛する子ども」の育成を心掛けていくことが、一番の恩返しになると捉えることが大切である。〇地域や保護者からは、「児童一人ひとりが安心して学べる環境を整えてほしい。」「今後も一層の防犯対策を講じてほしい。地域としても、児童が安全で安心した学校生活が送れるように、支援していきたい。」という、声が寄せられている。		学校関係者評価	〇今年度も、地域や保護者の方々のご理解・ご協力により、本校の教育目標である「豊かな心の育成」や「学び合い・高め合える子どもの育成」に向けての教育活動を展開することができた。「地域で学ぶ子ども」という認識のもと、子どもたちや学校行事等に積極的に関わってくださる方々が多くいらっしゃることに、心から感謝をしなければならぬ。〇地域や保護者からは、「引き続き「児童一人ひとりを大切にしたい。」「防犯対策を含め、児童一人ひとりが安心して学べる環境を整えてほしい。」という、声が寄せられている。		学校関係者評価	〇昨年度立ち上げていただいた「けやきの会」のご協力により、今年度もさらに、本校の教育目標である「豊かな心の育成」や「学び合い・高め合える子どもの育成」に向けての教育活動を展開することができた。今後も更に様々な場面でご協力をいただけるということであるが、その期待にこたえるよう教育活動の充実と、子どもたちの学びの様子への発信にも力を注いでいきたい。〇一方、さらに「児童一人ひとりをよく見てほしい。」「いじめや防犯対策を、より講じてほしい。」という声も寄せられているので、それらに対しても、できることから始めていきたいものである。				
学校経営	〇恵まれた自然環境や協力的な保護者・地域の方々の支援を受け、農作業体験、宿泊体験、特別クラブ活動などを充実させることで、「地域や人やもの」を大切に、豊かな心と健やかな体をもった子が育ってきている。また、様々な人々との関わりを通して、気持ちのよい挨拶や優しい気配りのできる子		学校経営	〇「地域で学ぶ子どもたちを育てる」という共通意識のもと、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を十分果たすことにより、児童の豊かな学びが保障されることは言うまでもない。本校は、今年度もそれらがよりよく機能した結果、また一歩、取組目標に近づくことができたのではないかと考えている。また、多少		学校経営	〇「子どもたちが安心して豊かに学び育つ学校づくり」を中期取組目標に掲げて、毎日の授業はもちろん、様々な学校行事や地域の行事が連携して進められてきたことは、とても喜ばしいことである。来年度は40周年という節目の年でもあるので、				

中期取組 目標 振り返り	も増えてきている。我々職員集団も「チーム獅子ヶ谷」という意識のもと、児童一人ひとりを大切に、皆で関わっていこうとする姿勢が定着しつつある。今後は更に、活動や学びの質を高められるような手立てを講じていく必要がある。
-----------------------------	--

中期取組 目標 振り返り	のメンバーの入れ替わりがあったものの、「チーム獅子ヶ谷」の一員として全児童へ関わっていく姿勢を大切にすることにより児童指導においても、より適切な支援を迅速に行えるようになりつつある。
-----------------------------	---

中期取組 目標 振り返り	<ul style="list-style-type: none">・子どもが学ぶ楽しさを実感できる授業づくり(それを担う、活気にあふれた学校組織づくり)・子どもが自己有用感を持ち、一人ひとりを大切にする温かな集団づくり・地域に根ざした特色ある学校づくり に引き続き取り組んでいきたい。
-----------------------------	---